

令和6年度 第3回 教育研究評議会 要録

日時 令和6年6月19日(水) 13時00分～14時32分
場所 遠隔会議：第一会議室、各事務室等
出席者 榊理事長、高田学長、榎本理事、中山副学長、柳沢副学長、久保副学長、山内副学長、
吉田文学部長、酒井理学部長、鈴木則子生活環境学部長、藤田工学部長、
遊佐人間文化総合科学研究科長、鈴木広光評議員、高岡評議員、鍵和田評議員、
篠田評議員、岡本評議員、松本評議員、黒子評議員、衣川評議員、宮林評議員
列席者 三野監事、大久保監事、三谷監事、向総務課長、寺本企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、
奥施設課長、岡田情報課長/学術情報課長、荒堀国際課長、植田研究協力課長、米谷学務課長、
角田学生生活課長、津寄入試課長、岩阪監査室長
議長 高田学長

議事に先立ち、前回記録を確認した。

I 審議事項

1. 学内組織見直しについて

中山副学長から資料1-1～1-2により説明があり、審議の結果、教育統括会議を10月に設置することについて、承認した。また、高等教育研究・支援センター等については、次回の教育研究評議会で決定したいため、意見を頂戴したい旨、依頼があった。

藤田工学部長から、専門教育科目について他の部局と調整が必要な場合、原案の組織構成からはどこで議論すべきか見えにくいとの意見があり、中山副学長から、大きな枠組みの話であれば教育統括会議での検討となるが、個別の事案であれば必要に応じて教育統括会議の下にワーキンググループを置くことになるとの説明があった。

鈴木広光評議員から、高等教育研究・支援センターに入試に関する部門を置く意図が分かりにくいとの意見があり、中山副学長から、入試についてはこれまであまり分析の対象とならなかったが、入学後の教育のみではなく入学前から戦略的に学生支援に関する施策を検討する体制を整えたいとの説明があった。

松本評議員から、高大接続・入試部門の名称について、一般入試に関する議論もこの部門で行うことからすると高大接続という名称は変えた方が良いとの意見があり、中山副学長から、変更を検討したいとの発言があった。

宮林評議員から、現状の教育計画室では、室員が特に秋以降は非常勤講師の任用や授業計画の更新の業務に忙殺されており、新設する教育統括会議は大学全体の教学に関する戦略を検討できる組織となるよう期待したいとの意見があった。

2. その他

特になし

II 報告事項

1. 令和6年度 第2回役員会報告について

高田学長から、資料1により報告があった。

2. 両大学の連携の進捗について

榎本理事から、資料2により報告があった。

3. 機構直下の組織に関する内部質保証について

榎本理事から、資料3により報告があり、機構直下の組織を大学でも活かしていけるよう、部局でも考えていただきたい旨、依頼があった。

4. 目的積立金の執行計画について
榎本理事から、資料4により報告があった。
5. 科研費の応募における e-Rad の研究インテグリティに係る情報の登録について
久保副学長から、資料5-1～5-2により報告があり、科研費に応募する研究者は e-Rad に研究インテグリティに係る情報の登録が必要になったことの報告があった。
6. 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の申請について
久保副学長から、資料6により申請したことの報告があった。
7. ウェスタンデジタル奨学金について
柳沢副学長から、資料7により報告があった。
8. 三菱みらい育成財団助成内定について
山内副学長から、三菱みらい育成財団助成内定があった旨の報告と、今後、東京工業大学、お茶の水女子大学と連携して行事を行うこととなるため、各部局の協力をお願いしたい旨、依頼があった。
9. 内部統制に関する研修会について
榎本理事から、資料8により報告があり、特に部局長は必ず受講いただきたい旨発言があった。
10. 各学部における特色ある教育・研究活動の情報提供について
中山副学長から、資料9により情報提供の依頼があった。酒井理学部長からの指摘により、センター、研究所、機構等も追加して依頼することとした。
11. 学部学生の研究について
久保副学長から、資料10により報告があった。
12. ALCS 学修行動比較調査について
柳沢副学長から、ALCS 学修行動比較調査について、他の調査と重複する内容であり、また、データ処理等に労力がかかるのに比して、活用されていないため、取りやめる旨の報告があった。
13. その他
特になし

次回、教育研究評議会を令和6年7月17日（水）13時00分から開催することとして散会